

一般質問通告一覧表

令和6年2月21日（水）

	氏名	通告時間	件名（要旨）	答弁者	予定時刻
1	田中千秋	50分	観光地ブランドの深化について 12月定例会の所信表明の中で「観光地ブランドの深化」について、油谷・伊上地区、大羽山地区、俵山温泉、仙崎地区、それぞれの特性ごとに取り組むとしており、また、外国人観光客の受入体制の充実強化に努めるとあるが、実現するにあたり、どのような財源を使い、どのくらいの規模での事業を考えておられるのか、市長の具体的なビジョンを伺う。	市長 部課長	9:30
2	重廣正美	30分	地球温暖化対策について 地球温暖化は、海水温の上昇による台風の多発や集中豪雨・ゲリラ豪雨による洪水や土砂災害を引き起こし、気温上昇により農業や漁業の収穫物の変化などをもたらしていると考えられている。本市ではどのような政策を持って対策に取り組んでいるのか。また、今後の計画について尋ねる。	市長 教育長 部課長	10:30
3	ひさなが信也	50分	災害時における被災者支援について 災害はいつ、どこで発生するか分からない。災害が発生した際には、被災者を行政として横断的に支えていかなければならないと考えるが、被災者支援の重要性について市長の見解を尋ねる。	市長 部課長	11:10
			観光を推進する上での不安材料について 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、国内に限らず、世界中の人々が各地へ旅行をするようになった。本市においても、この機を逃さず観光客の誘致を勧めなければならないと考えるが、市長の見解を尋ねる。	市長 部課長	
			高校生からの意見及び提案について 長門市議会では大津緑洋高等学校の生徒と意見交換会を開催してきた。その際、高校生から様々な意見や提案をいただいた。今後、市政運営を行っていく中で、高校生を含む若い世代の意見を大切にしていく必要があると考えるが、市長の見解について尋ねる。	市長 教育長 部課長	
4	米弥又由	30分	震災対策について この度、石川県能登地方を震源とする地震が発生し、約一か月半が経過した。今もなお、苦しい避難生活をしている方々がいる。 台風や豪雨などは、ある程度予測ができ防災対策を検討する時間があるが、震災については、いつどこで発生するのか予測がつかない。 震災があった能登地方は本市と地理的条件が似ており、同様な被害を受けることが想定される。 そこで、このような地震で受けた被害について本市はどう捉えているのか尋ねる。	市長 部課長	13:00
5	岩藤睦子	40分	公共施設等のあり方について 本市では、平成27年度に公共施設等総合管理計画及び第一次アクションプランを策定し、公共施設等マネジメントの取組を進めている。 近い将来にやってくる、施設の老朽化や人口減少に伴う利用団体や利用者の減少に加えて、デジタル時代に即した施設サービスの向上や利活用の促進などを見据えた、今後の公共施設等のあり方について伺う。	市長 教育長 部課長	13:40
6	重村法弘	60分	畜産振興について 市長は、令和5年3月30日に「次代の担い手が活躍し、畜産で稼げるまち・ながとの実現」との基本理念を掲げ、畜産振興計画を策定し、基幹産業であるはずの畜産分野の家畜飼養頭数・農家戸数の減少に歯止めをかけ、生産基盤の再編を図ろうとされている。 市長選での公約及び施政方針で述べられた政策への思いと今後の構想について尋ねる。	市長 部課長	14:30
			行政事務における情報公開及び共有について 日々の行政運営においては、多種多様な事案が発生している。市において定められたガイドライン等に照らし、bad、goodを問わず基本公開を原則として市民、議会に共有されるものと考えられるが、市長の情報公開・共有のあり方について見解を尋ねる。	市長 教育長 部課長	

令和6年2月22日（木）

	氏名	通告時間	件名（要旨）	答弁者	予定時刻
7	林哲也	80分	セルフ・ネグレクトへの支援について セルフ・ネグレクトとは、生活環境や栄養状態が悪化しているにもかかわらず、自分自身に無関心・放置する状態になることである。1人暮らしの高齢者などに起こりやすく、うつ病や認知症などが影響しているとも指摘されており、ゴミ屋敷や孤立死の原因とも言われているが、セルフ・ネグレクトについての現状把握と支援策を尋ねる。	市長 部課長	9：30
			道の駅センザキッチンについて 道の駅センザキッチンは、平成30年4月20日に交流拠点施設として開業しており、昨年の11月24日には来場者500万人を達成している。また、市はセンザキッチンの敷地内に、外資系ホテルを建設することを前提に、関係する都内の企業と協定を結ぶなど周辺地域の期待も大きい。道の駅センザキッチンの今後の展望を尋ねる。	市長 副市長 部課長	
			（仮称）新白滝山風力発電事業について 下関市と本市の境にある白滝山周辺において、JR東日本エネルギー開発（株）は、総出力77,400kWの風力発電所の設置を計画（4,300kW×18基）している。現在、風力発電所が稼働中であり、本事業は既設の風力発電設備をすべて撤去した上で実施するとしているが、「市民のいのちと生活を守る」立場から、この事業にどのように関わっていく考えなのか。	市長 部課長	
8	田村大治郎	60分	インバウンド増加への対策について 株式会社JTBが発表した2024年の旅行動向の見通しでは「2024年の訪日外国人客数は3,310万人（対前年131.3%、対2019年103.8%）と推計」され、「2023年4月の日本の水際対策終了に伴い海外から日本への旅行がしやすくなったことに加え、欧米などと比べて相対的に安い物価と円安というお得感もあり、訪日外国人客数は急速に回復している」とされている。加えてアメリカのニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2024年に行くべき52カ所」で、世界各地の中で山口市が3番目に選ばれたことにより、国内外からの注目が集まっており、県内観光地への波及が期待できる。本市は、アメリカのニュース専門チャンネルCNNで元乃隅神社が紹介されたことによる集客効果を経験しているが、本年のインバウンドの動向をどのように予測し備えるか尋ねる。	市長 部課長	11:00
			P T Aの現状と今後について 2023年3月に東京都小学校P T A協議会が公益社団法人日本P T A全国協議会から退会したことは記憶に新しく、時代や家庭環境の変化からP T Aは転換期を迎えていると感じている。これからのP T Aは従来の活動方法に執着することなく、柔軟に、参加しやすい活動を目指していかねばならないと考えるが、教育委員会の見解を尋ねる。	市長 教育長 部課長	
9	吉津弘之	30分	子育て支援について 子育て世帯は経済的、精神的など多くの不安や悩みを抱えている。適切な支援につなげるためにも、相談や支援体制を整え、各種事業と連携することが大切であると考えているが、本市の現状や課題についてどのように捉えているのか尋ねる。	市長 部課長	13:00
10	綾城美佳	70分	誰もが地域で安心して暮らせる環境の整備に向けて 市長は施政方針のなかで「誰もが健幸で安心して暮らせるまちづくり」として、障害者や高齢者など配慮が必要な方に対する支援の充実を掲げており、誰もが地域で安心して暮らしていくための環境整備は重要なテーマであると考える。前回12月定例会の一般質問で江原市長は、民間事業者への合理的配慮については、議員お示しの先進地事例を調査し、前向きに検討していく旨の答弁をされた。 令和6年4月から事業者による合理的配慮の提供の義務化がスタートするが、本市における合理的配慮の推進について、どのように取り組んでいくのか、市長の考えを尋ねる。	市長 部課長	13:40
11	江原健二	30分	ごみの減量化等の対策について 本市は一般廃棄物処理基本計画を策定し、ごみ排出抑制やリサイクル率向上などを目標としている。市長は、ごみの減量化やリサイクルの現状及び課題をどのように認識し、その対策を進めるのか尋ねる。	市長 部課長	15:00
12	上田啓二	40分	オーガニックビレッジ宣言からの1年を振り返る 農林水産省は、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地（オーガニックビレッジ）を令和7年までに100市町村、令和12年までに200市町村創出することを目標としており、現在92市町村が事業を実施し、そのうち54市町村がオーガニックビレッジ宣言をしている。 本市がオーガニックビレッジ宣言をしてから間もなく1年となるが、ただ宣言をすれば良いものではなく、問われるのは中身だと考える。宣言をした他市町村の状況を踏まえ、本市の実績、将来像及び方向性について尋ねる。	市長 部課長	15:40